

# HP Integrityサーバを管理するCA Unicenter用 Insight Integration



2003年8月（初版）  
製品番号 349141-191

© 2003 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft®およびWindows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品の保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商業用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェア資料、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で 사용되는場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP Integrityサーバを管理するCA Unicenter用Insight Integration

2003年8月（初版）  
製品番号 349141-191

---

## 目次

はじめに .....	5
WorldView .....	6
分散ステート マシン .....	8
Agent View .....	9
イベント管理 .....	10



---

## はじめに

このマニュアルは、ユーザがComputer Associates Unicenter製品の機能を理解していることを前提としています。

このマニュアルでは、現在利用可能なUnicenter統合モジュールでのHP Integrity Superdomeサーバのサポートについて説明します。

CA Unicenter用Insight Integrationは、いくつかの機能を提供します。主要な統合コンポーネントのいくつかは、以下のようなものです。詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/integration/>（英語）を参照してください。

- Unicenter Repositoryの特定のクラスによって定義されるシステムとエージェント
- デバイス クラスおよびオペレーティング システムによってWorldViewマップ上のシステムを特定するための2次検出
- ハードウェアの監視を可能にする、分散ステートマシンとの包括的な統合
- エンタープライズ マネジメント コンソールでの解釈を可能にする、ProLiant SNMPトラップ用に定義されたメッセージ レコードおよびメッセージアクション

## WorldView

HP Integrity Superdomeシステムは、Unispaceアイコンの下に表示されるHPマネジメント エージェントを使用して検出されます（図1を参照）。

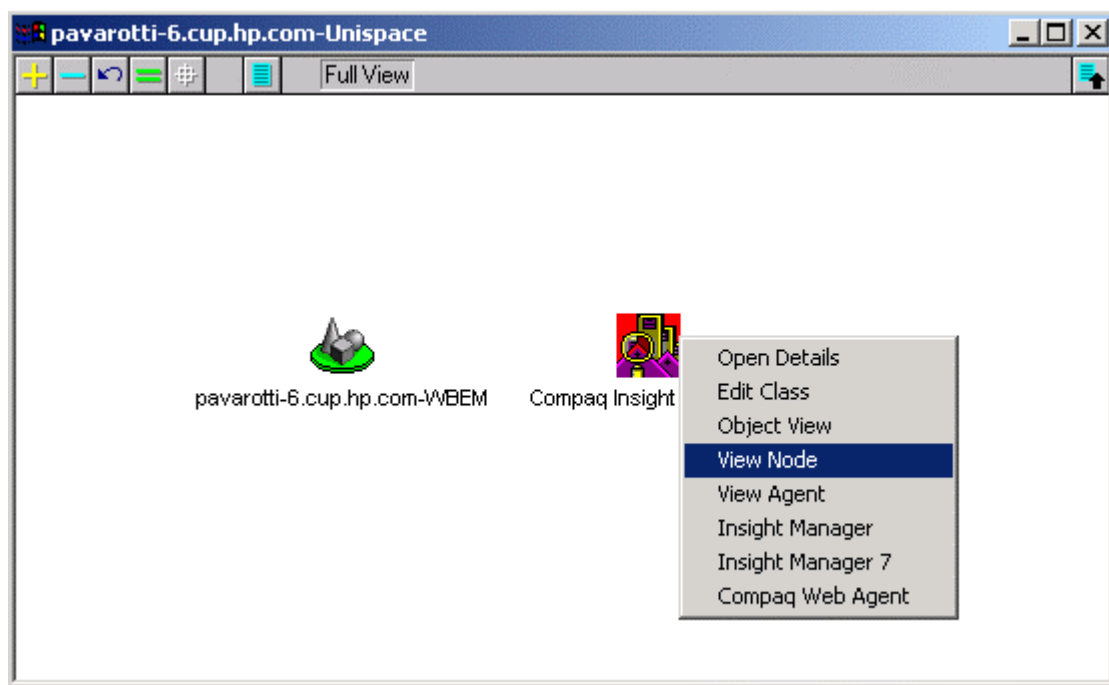


図1 : HP Integrity SuperdomeシステムのUnispace View

また、これらのシステムは、セカンド レベル ディスカバリ プログラムによって、指定されたオペレーティング システムで動作するHP（コンパック）製サーバとして再分類されます。たとえば、システムがUnicenterによってWindows NTとして検出される場合、これらのシステムは、統合によって、Compaq Windows NTとして再分類されます（図2を参照）。

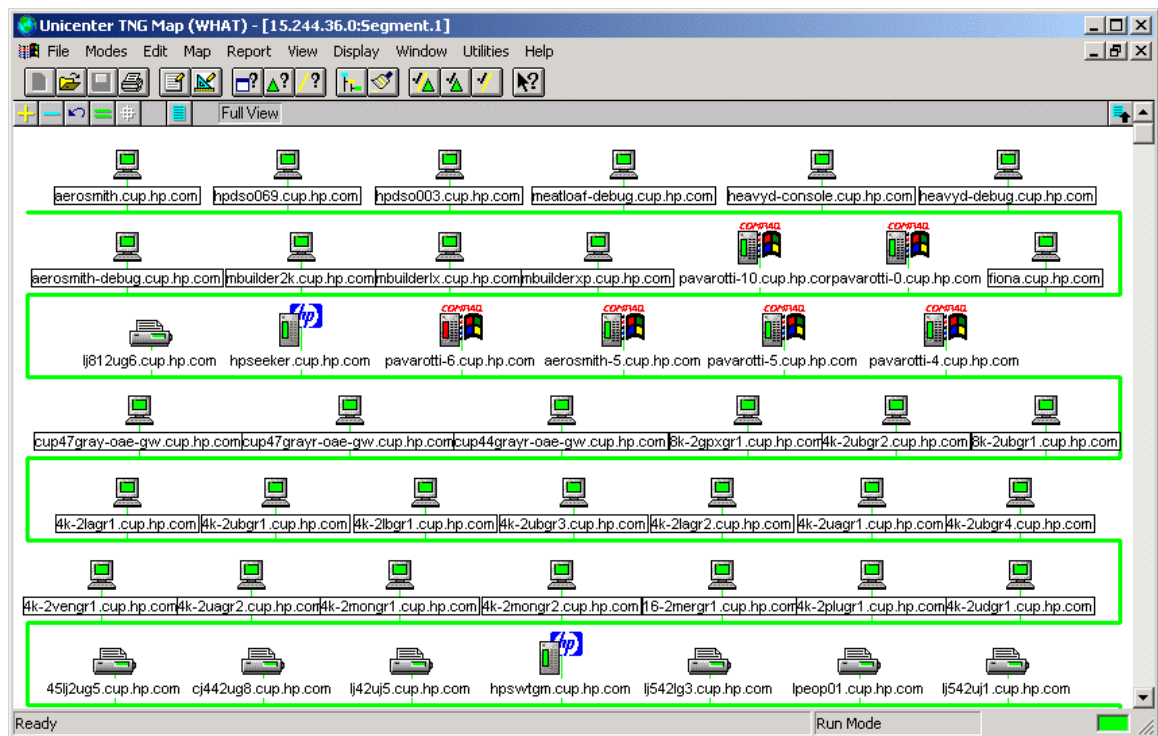


図2：セカンドレベル ディスカバリ後のHP Integrity Superdomeシステムを表示するWorldViewマップ

セカンドレベル ディスカバリが行われる場合でも行われない場合でも、これらのシステムは、ProLiantサーバがUnicenter統合で処理される場合と同じように検出され、再分類されます。

ProLiantサーバ用に作成されたメニュー オプションも使用可能で、システムで動作するWebエージェントを制御できるので、ユーザは、システムの詳細情報を入手できます。

## 分散ステート マシン

分散ステート マシン (DSM) は、ProLiantサーバを監視する場合と同じように、HP Integrity Superdome システムで動作するHPマネジメント エージェントを監視します (図3を参照)。ただし、注意の必要な、いくつかの違いがあります。たとえば、HP Integrityサーバは異なるSCSIエージェントを実装するため、DSMではSCSI監視機能は利用できません。

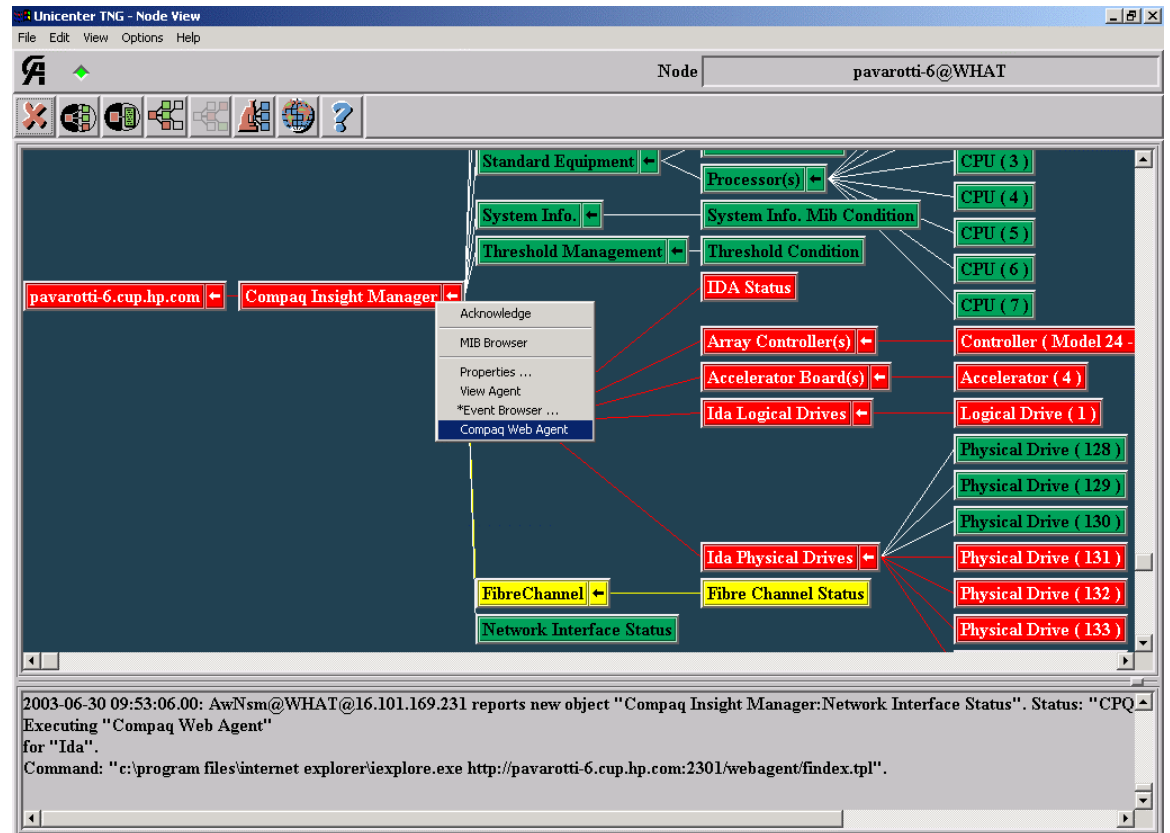


図3 : HP Integrity Superdomeシステムを監視するUnicenter NodeView



## Agent View

ProLiantサーバ用に作成されたAgent Viewは、HP Integrity Superdomeシステムに関する同じ情報を表示します。ただし、一部のコンポーネントは使用できません。たとえば、最も顕著な違いは、SCSIサブシステムのステータスが表示されないことです（図4を参照）。

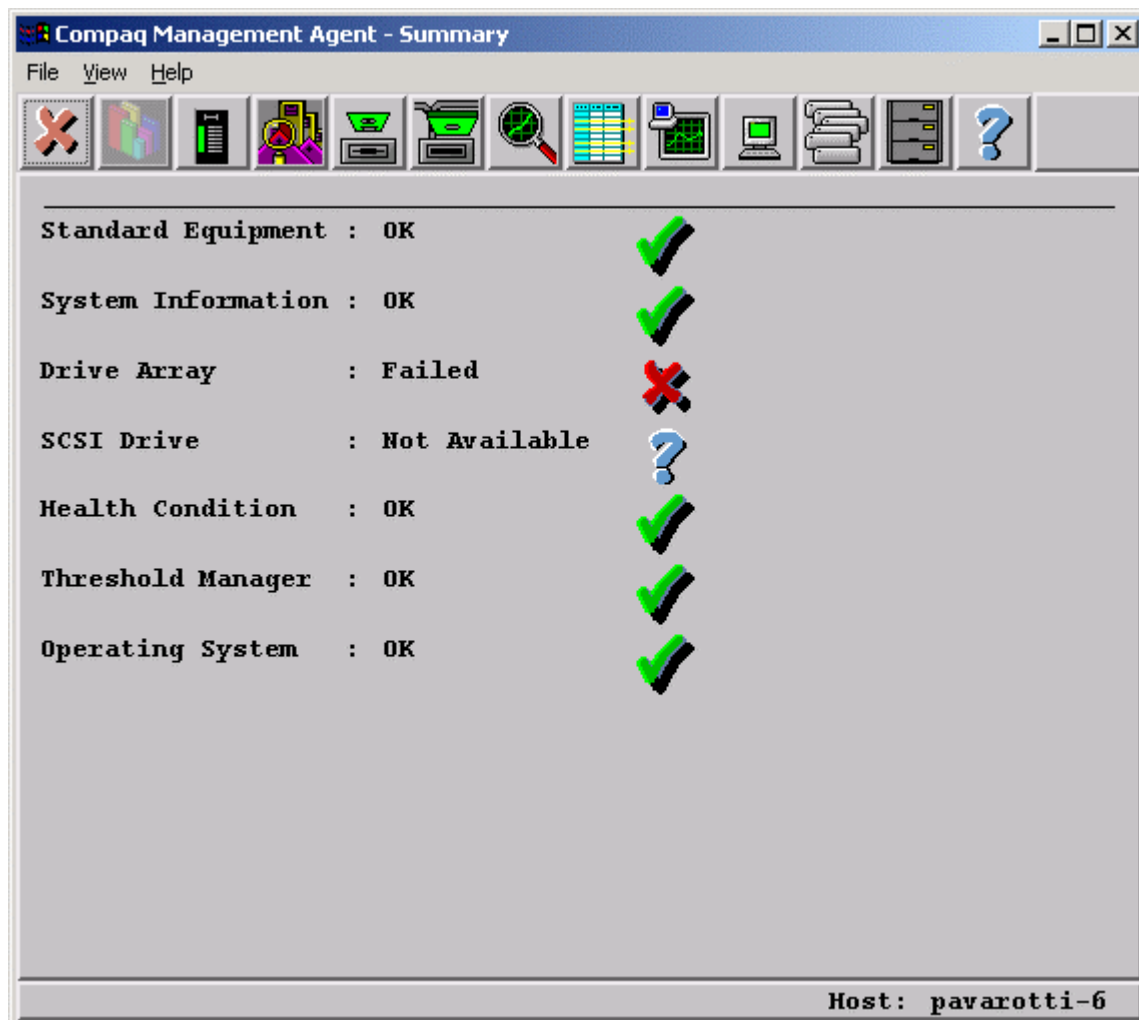


図4：HP Integrity Superdomeシステム上のHPマネジメント エージェントのAgent View

---

## イベント管理

現在、HP Integrity Superdomeのアラーム用のメッセージ レコードは、ProLiantサーバによって同じアラーム（NICアラームなど）が送信される場合にだけ、提供されます。

IntegrityシステムによってUnicenterに送信されるSNMPトラップは、エンタープライズ マネジメント コンソールで受信され、表示されますが、いずれかのProLiantメッセージ レコード ファイルですでに定義されているアラームでない限り解釈されません。

ユーザは、独自のメッセージ レコードとメッセージ アクションを作成して、HP Integrity Superdomeシステムからのイベントを解釈するための情報を提供できます。この手順については、『CA Procedures Guide』（Unicenterのマニュアル）を参照してください。

以下に、テキスト ファイルからCA Unicenterにインポート可能なメッセージ レコードの例を示します。このメッセージ レコードでは、HP Integrity Superdomeシステムからのイベントに対する一般的な処理方法と解釈が定義されています。

メッセージ レコードの例：

```
#
# HP Integrity Superdome system Generic Message Record
#
DEfINE MSGREcord MSGID='* SNMPTRAP: * * 11 * * 6 * * * *
1.3.6.1.4.1.11.2.23.35.1*'

    MSGNODE=*

    DEscription='HP Integrity Superdome Event'

    TYPE=MSG

DEfINE MSGACTion NAME=(*,10)

    ACTION=sendkeep TEXT='HP - Integrity Server Event &9 has
been received: &(16:)'

    SEVERITY=I

    ATTRIB=default

    COLOR=blue

DEfINE MSGACTion Name=(*,20)

    ACTION=ANNOTATE TEXT='An event has been received from an HP
Integrity Superdome system. The event ID and summary is displayed
with the message.'
```

この例をテキスト ファイルにコピーして「cautil -f newfile.txt」コマンドを実行すると、メッセージ レコードがUnicenterにインポートされます。

以下のスクリーンショットは、この一般メッセージ レコードおよびメッセージ アクションがUnicenterのデータベースに追加された後に、Unicenterエンタープライズ マネジメント コンソールで処理されるトラップの例を示しています。

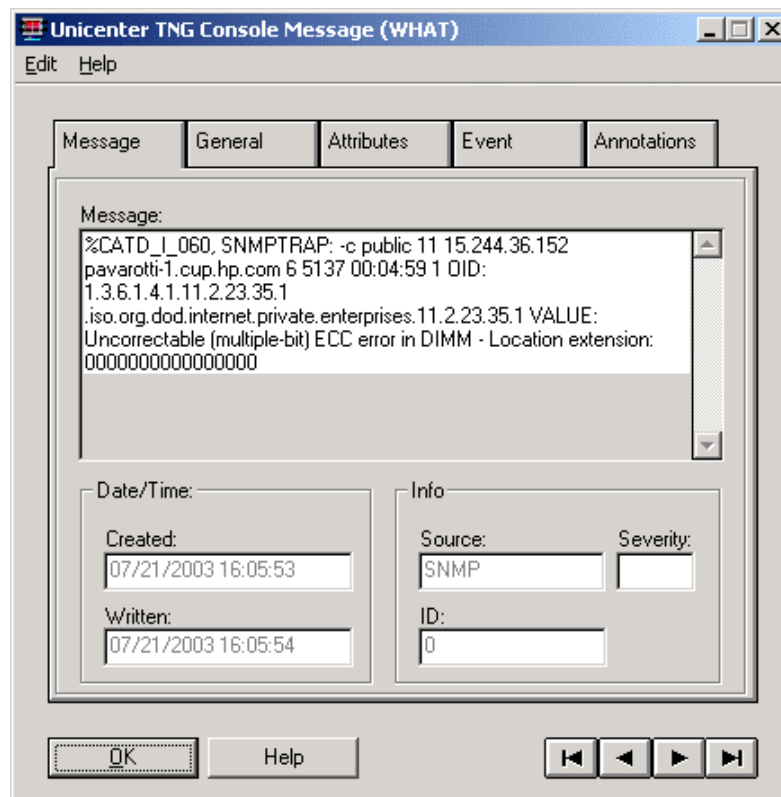


図5 : HP Integrity Superdomeシステムの未解釈SNMPトラップ

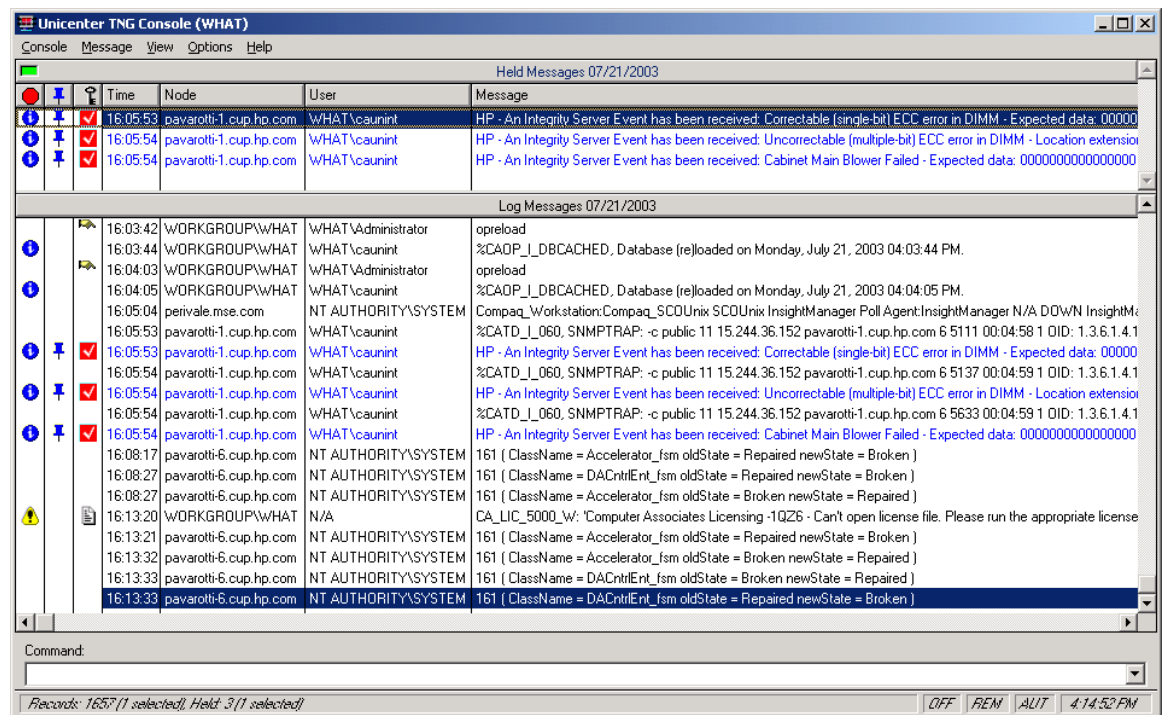


図6 : Unicenterエンタープライズ マネジメント コンソール

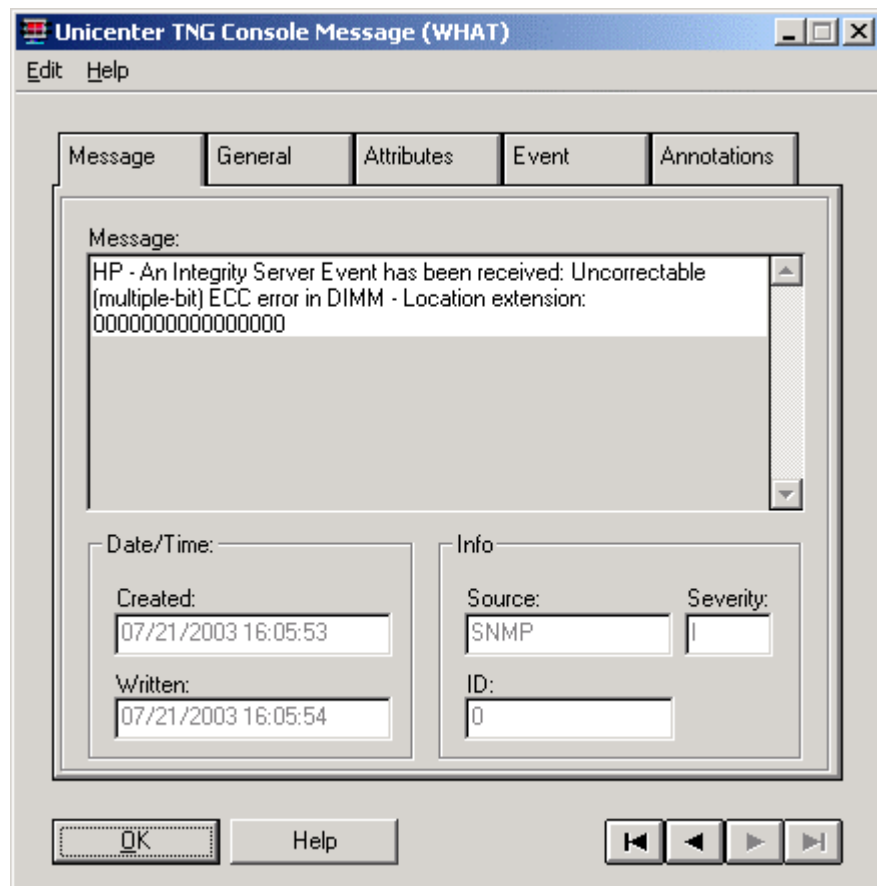


図7 : HP Integrity Superdomeシステムの解釈済みSNMPトラップ